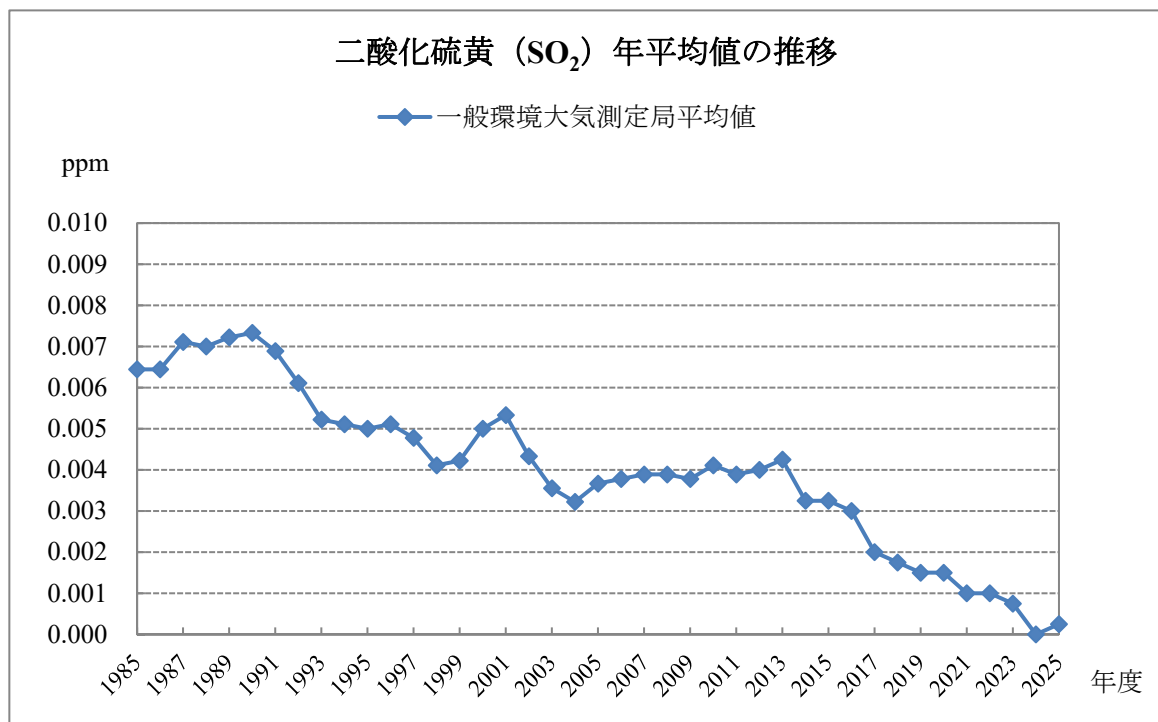
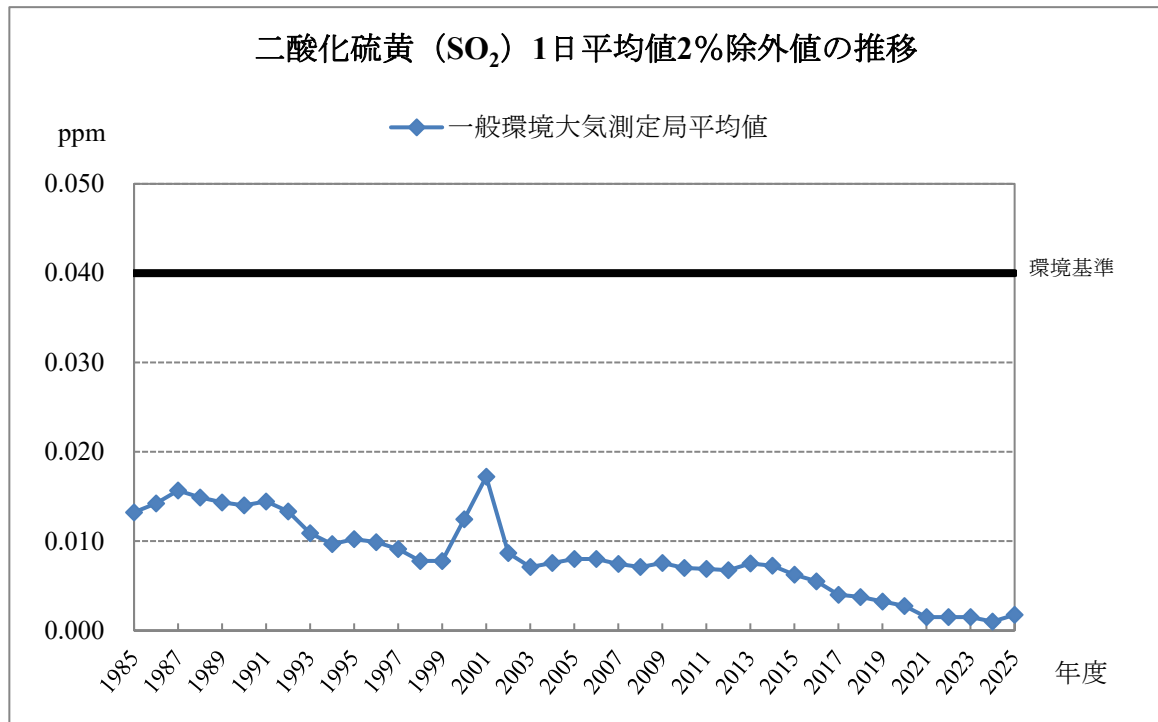


(2) 近年の状況と推移

1 二酸化硫黄 (SO₂)

二酸化硫黄については、2000 ～ 2002 年度に三宅島火山の噴火による影響があるが、継続して全局で環境基準を達成している。(長期的評価)

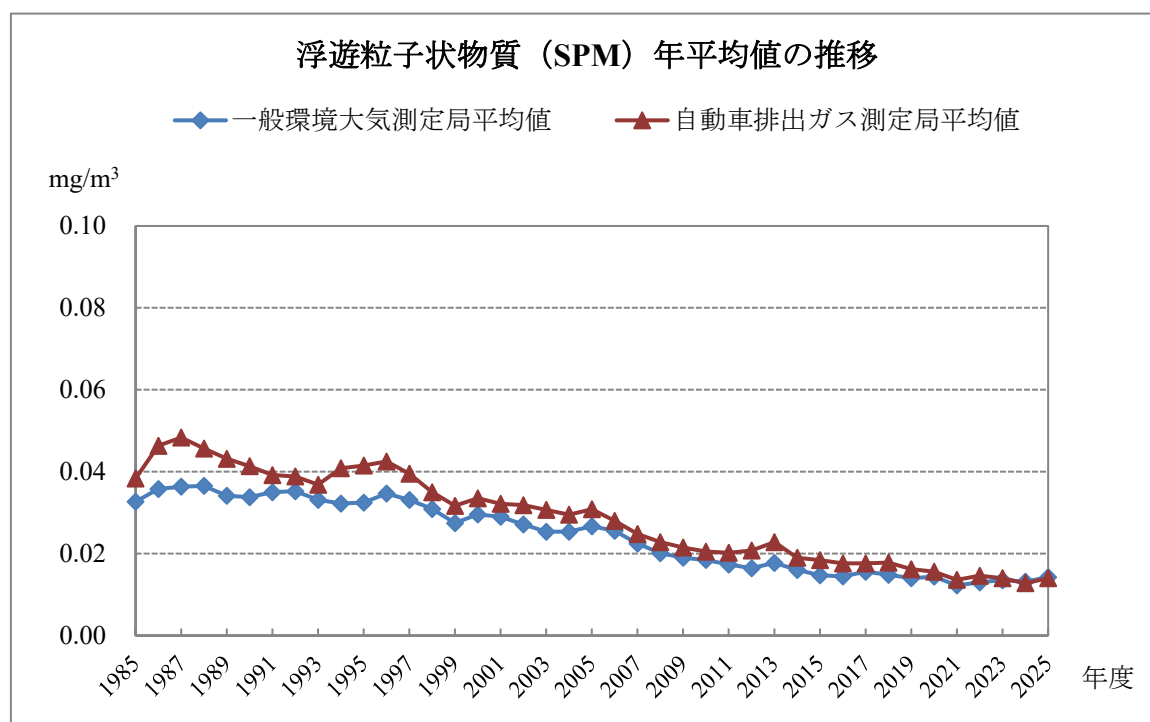
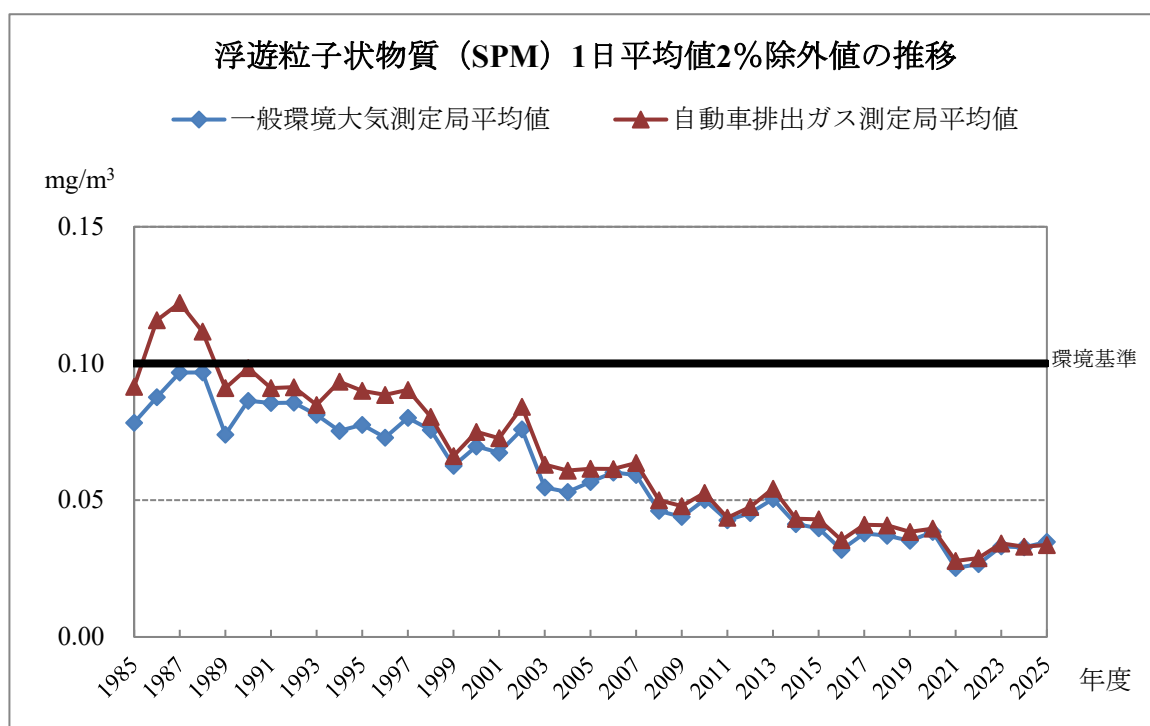
1 日平均値 2%除外値、年平均値の共に、近年、低濃度を維持しており、2021 年度以降、1 日平均値 2%除外値は、0.002ppm 以下、年平均値は、0.001ppm 以下となっている。



2 浮遊粒子状物質（SPM）

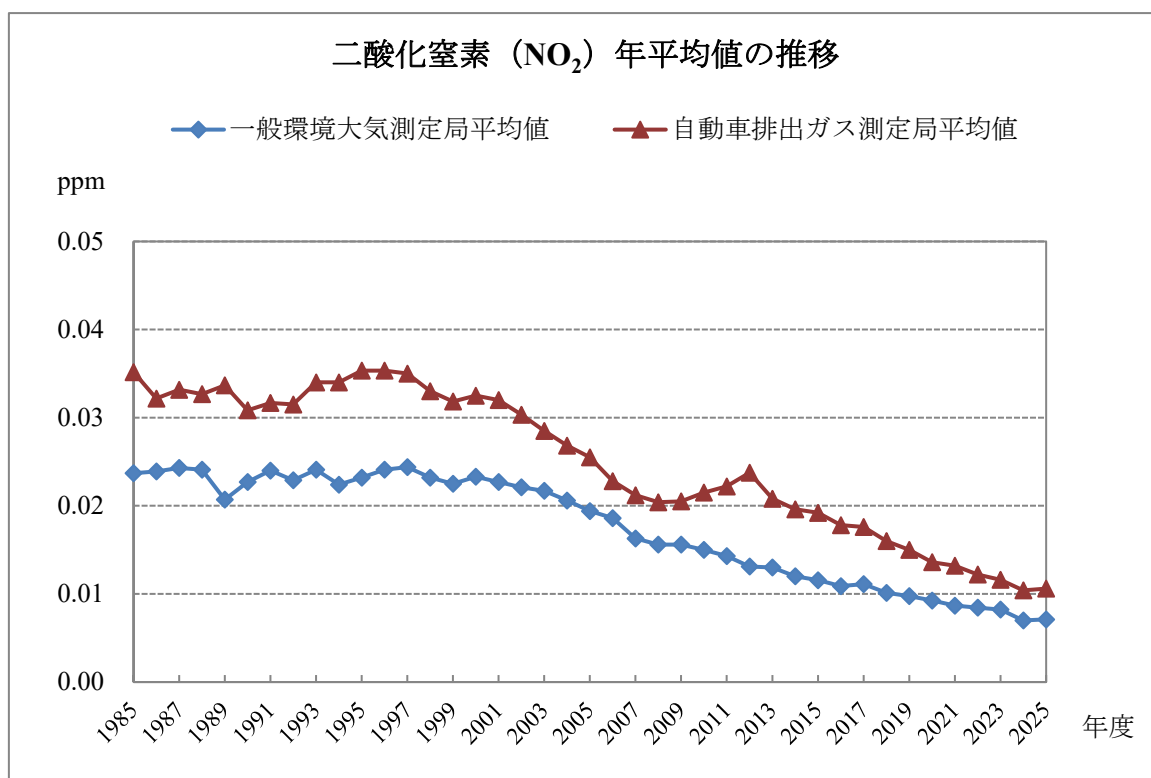
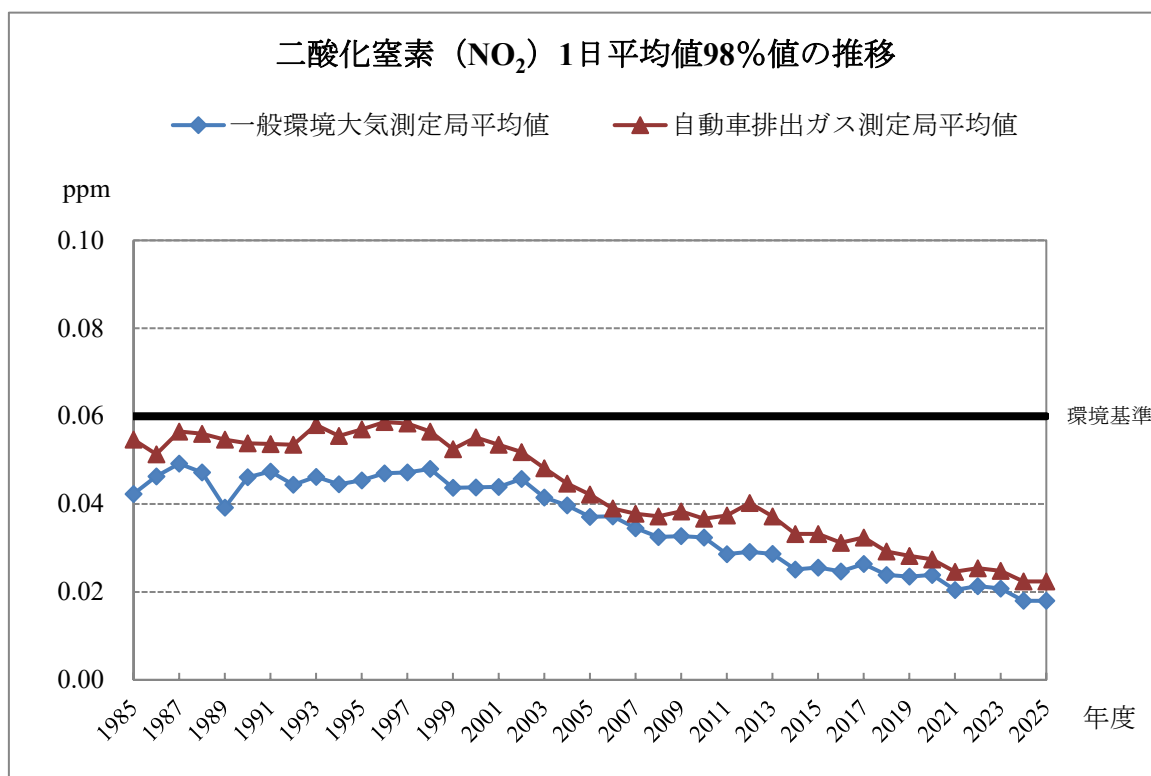
浮遊粒子状物質については、2003 年度以降、2011 年度を除いては全局で環境基準を達成している。2011 年度は黄砂の影響により、環境基準を超える日が 2 日以上連続したため環境基準が非達成となった。（長期的評価）

年平均値は、一般環境大気測定局は 2012 年度以降、自動車排出ガス測定局は 2016 年度以降、各局で 0.02mg/m³ 以下を維持している。



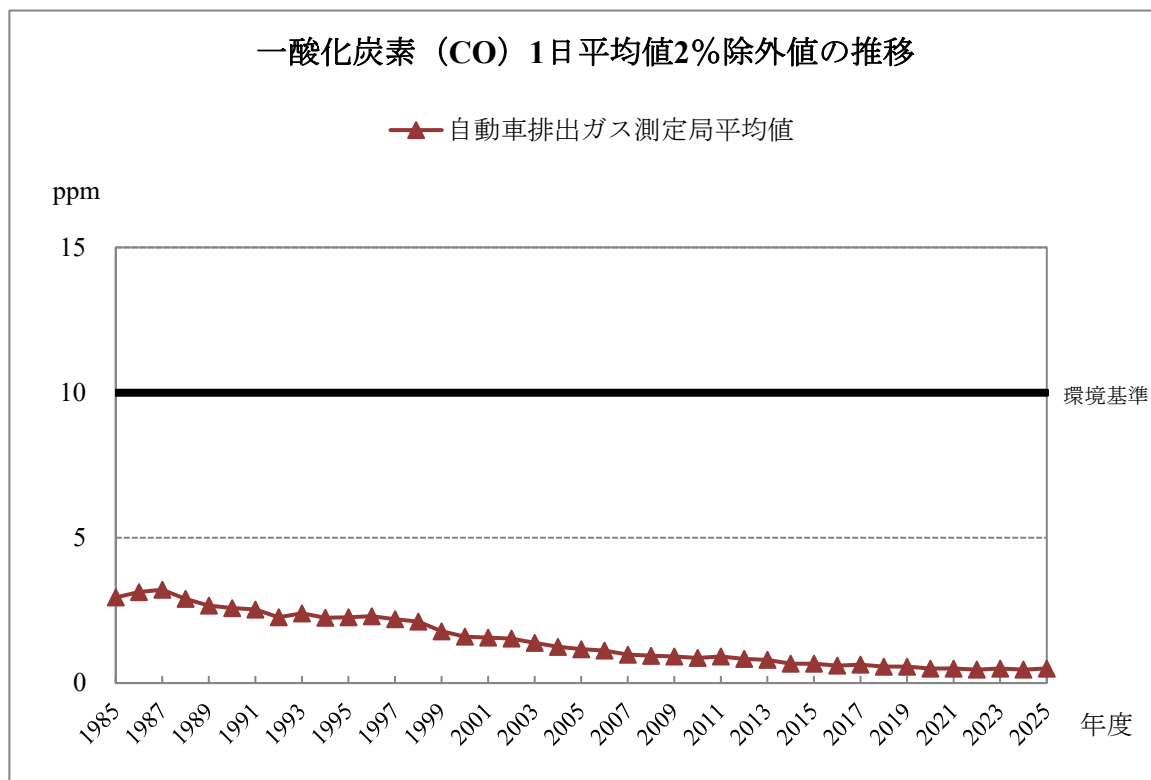
3 二酸化窒素 (NO₂)

二酸化窒素については、2003 年度以降、全局で環境基準を達成しており、多少の上昇が見られる局はあるものの、2013 年度以降、下降傾向である。



4 一酸化炭素（CO）

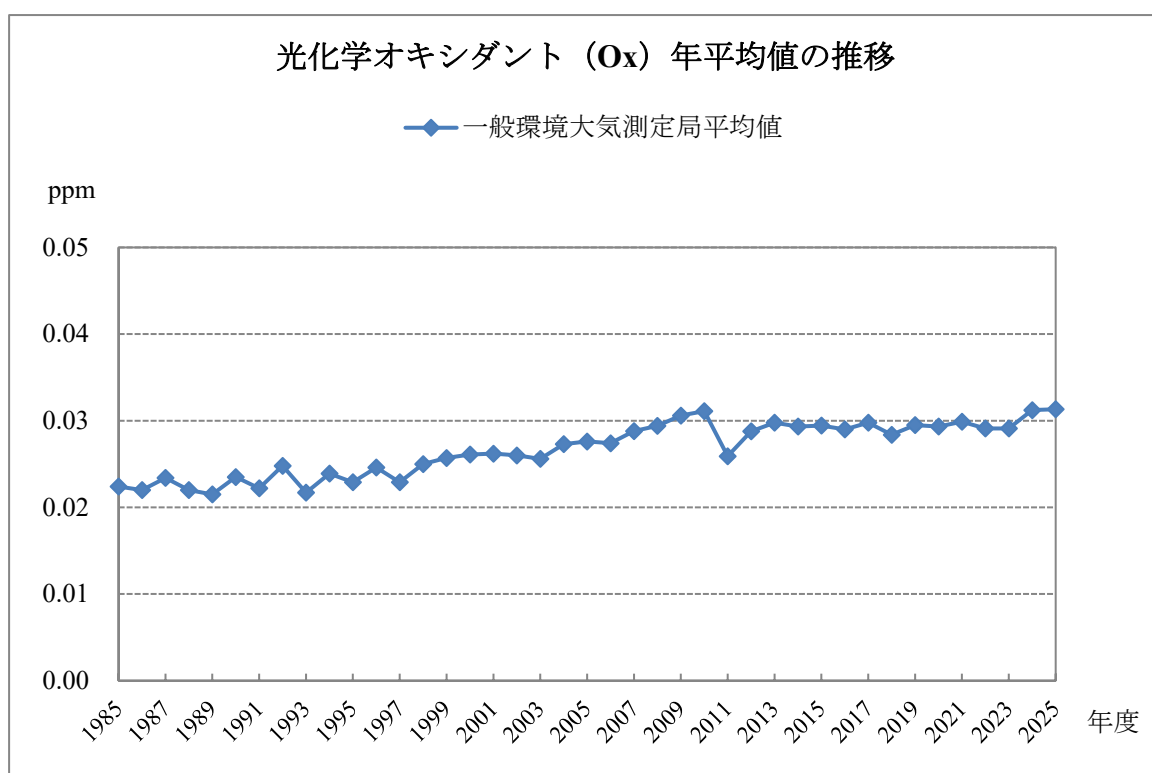
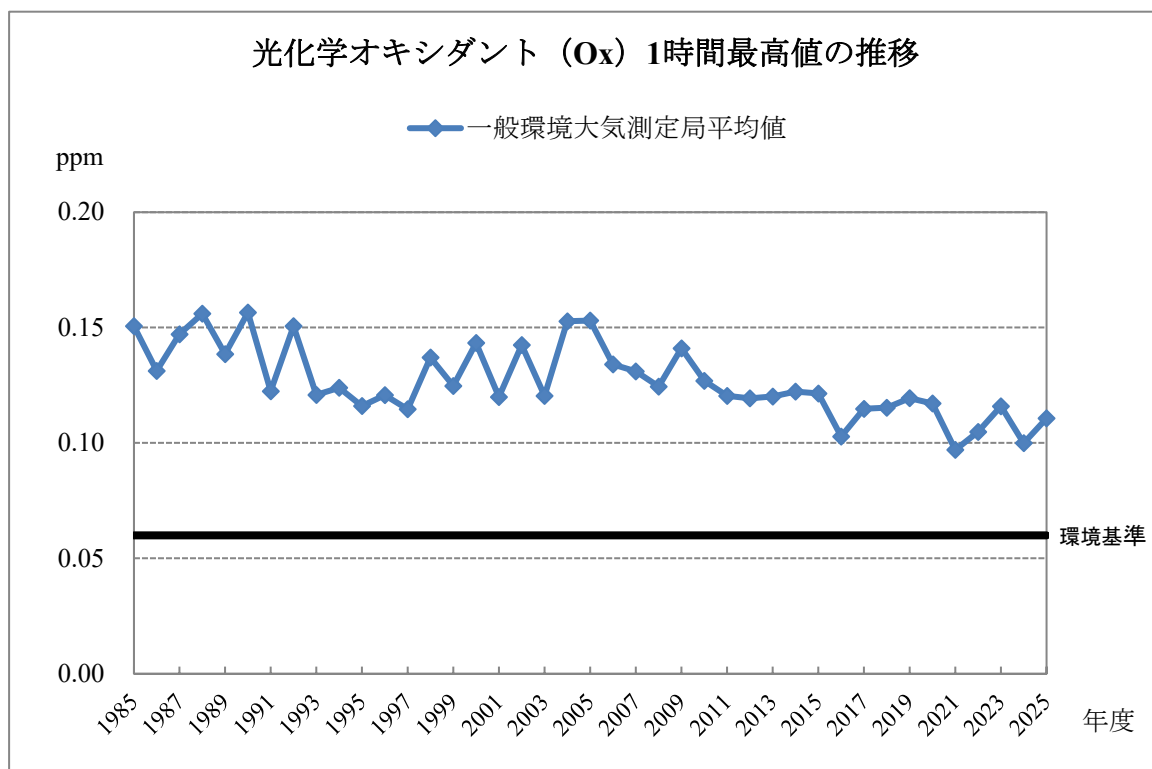
一酸化炭素については、継続して全局で環境基準を達成しており、基準値よりかなり低い値で推移している。（長期的評価）



5 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントについては、全局で環境基準非達成となっている。

1 時間値最高値は、2015 年度以降、0.100～0.121ppm の範囲で増減を繰り返している。年平均値は、近年、横ばいで推移していたが、2024、2025 年度は、僅かに増加した。



6 微小粒子状物質（PM2.5）

微小粒子状物質については、環境基準の短期的評価（1日平均値98%値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）では2016年度以降、長期的評価（年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）では2015年度以降、有効測定局全局で達成している。

近年は、測定開始時と比較して低濃度を維持しているが、2025年度は、1日平均値98%値が僅かに減少し、年平均値が増加した。

